

公益財団法人

りそなアジア・オセアニア財団

第15回（2024年度）

事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

I. 事業概況

2024年度の事業運営は、セミナー、助成、環境の3事業いずれもほぼ期初計画どおり遂行することができた。特にセミナー事業では、経済セミナーの開催回数が節目の50回を超えた。引続き多くの視聴者を獲得して開催回数を伸ばせるように注力したい。一方アジア・オセアニア地域を活動地とする助成事業/環境事業では、自然災害、内戦、政変などの影響で活動計画の変更を余儀なくされる案件が散見された。急激な円安や航空費・宿泊費の高騰も重なり、総じて厳しい活動環境であったと言える。各事業の具体的活動内容は、以下のとおりである。

1. セミナー事業

経済セミナー5回、環境シンポジウム1回、合計6回のセミナーを、ハイブリッド形式（会場参加およびオンライン配信）で開催した。うち4月開催の経済セミナーは前年度3月開催予定であったが講師とのスケジュール調整ができず今年度へ繰越したものである。また各セミナー・シンポジウムは、財団YouTubeチャンネルから1年間アーカイブ配信し、誰でも何時でも視聴できる形で運営を行った。6回の会場合計参加者数は462名、開催後1ヶ月時点の配信視聴合計回数は3126回となった。

なお、現時点における計6回分のアーカイブ配信視聴累計数は4900回を超えており、財団YouTubeチャンネル登録者数も784名に達している。各セミナーの内容は、次の通りである。

(1) 未来社会のパビリオンを覗く～あと353日、全貌が見えてきた大阪・関西万博～

2024年4月25日 於：ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ

会場出席者：93名 YouTube視聴回数：1,116回（1ヶ月後）※ライブ配信287+アーカイブ829（5/8～5/25）

第1部 「Better Co-Being～共鳴する未来～」

講師：慶應義塾大学 教授 宮田 裕章氏

第2部 「『2025年大阪・関西万博』について」

講師：大阪府・大阪市万博推進局 局長 彌園 友則氏

パネルディスカッション

パネリスト：宮田 裕章氏、彌園 友則氏

コーディネーター：廣常 啓一氏（財団理事）

（株）新産業文化創出研究所 代表取締役所長

(2) 国際交流とビジネス～インバウンド需要をどう取り込むか～

2024年7月11日 於：ウェスティンホテル大阪4階 花梨の間

会場出席者：84名 YouTube視聴回数：502回（1ヶ月後）※ライブ配信161+アーカイブ341（7/18-8/11）

第1部 「関西空港構想から60年、姿を変えた関西の空港と利用客の動向」

講師：関西エアポート（株）代表取締役社長 CEO 山谷 佳之氏

第2部 「インバウンドにおける最新動向と、今後のインバウンド施策について」

講師：日本政府観光局（JNTO） 理事 伊与田 美歴氏

パネルディスカッション

パネリスト：山谷 佳之氏、伊与田 美歴氏

コーディネーター：廣常 啓一氏（財団理事）

（株）新産業文化創出研究所 代表取締役所長

(3) ベトナムの最新ビジネス事情～ベトナムとの更なる関係深化を求めて～

2024年10月24日 於：ウェスティンホテル大阪4階 桔梗の間

会場出席者：75名 YouTube視聴回数：593回（1ヶ月後）※ライブ配信135+アーカイブ458（10/28-11/24）

第1部 「野村貿易とアセアン、そしてベトナム」

講師：野村貿易(株) 代表取締役社長 藤原 英昭氏

第2部 「最近のベトナム情勢と日越関係ーベトナム政局を読み解くー」

講師：アジア・ゼロエミッション共同体 (AZEC) 担当大使

前駐ベトナム特命全権大使 山田 滝雄氏

(4) 2025年の世界・日本・関西経済を展望する

2025年1月27日 於：ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ

会場出席者：96名 YouTube視聴回数：565回 (1ヶ月後) ※ライブ配信164+アーカイブ401 (1/29-2/27)

第1部 「変動する世界と日本経済の課題」

講師：公財)国際金融情報センター (JCIF) 理事長 玉木 林太郎氏

第2部 「最近の金融経済情勢と今後の展望」

講師：日本銀行 理事 大阪支店長 神山 一成氏

(5) 万博を契機としたスマート社会への誘い

2025年3月14日 於：ウェスティンホテル大阪4階 桔梗の間

会場出席者：54名 YouTube視聴回数：234回 (1ヶ月後) ※ライブ配信131+アーカイブ103 (3/17-4/14)

第1部 「万博から展望する新たなスマート社会」

講師：(株)三菱総合研究所 参事 関西・万博担当本部長 崎 恵典氏

第2部 「データ駆動型スマートシティの実現に向けて～大阪の挑戦～」

講師：大阪府スマートシティ戦略部 戦略推進室 戦略企画課 総括主査 龍石 雅之氏

(6) 第12回環境シンポジウム

ウェルビーイングを考える～みんなで踊りを：自然から“いのち”へ～

2024年11月19日 於：ウェスティンホテル大阪2階 オリアーナ

会場出席者：60名 YouTube視聴回数：116回 ※ライブ配信のみ

基調講演 「アートが生み出す共感とエネルギーの場」

講師：金沢21世紀美術館 館長 長谷川 祐子氏

基調講演 「脱炭素先行地域・生駒市における

カーボンニュートラル実現と歩いていけるまちづくり」

講師：奈良県生駒市 市長 小紫 雅史氏

事業発表 「レッサーパンダに最適な森を求めて」

～地域住民参加型保全活動の可能性～」

報告：大牟田市動物園 企画広報・教育担当 富澤 奏子氏

パネルディスカッション

パネリスト：長谷川 祐子氏、小紫 雅史氏、富澤 奏子氏

コーディネーター：阿部健一氏 総合地球環境学研究所 名誉教授 (財団環境事業選考委員長)

2. 助成事業 (アジア・オセアニア研究助成)

2025年度の助成プログラムとして、「調査研究助成」「国際学術交流助成」「出版助成」を2024年5月20日より7月31日まで公募し、合計159件の応募を得た。選考委員による選考の結果、計32件 (継続6件含む) 27,560千円の助成を理事会 (1月7日) で決定した。その後、助成決定者より2名の辞退者が出たため、30件 (継続6件含む) 25,360千円の助成で最終確定した。助成金は3月26日に交付 (交付手続未了者除く)。各助成の内容は、次の通りである。

(1) 調査研究助成

アジア・オセアニア諸国・地域に関する人文・社会科学分野（社会、文化、歴史、政治、経済等）において調査研究活動を行う若手研究者への助成。今期は、新規案件として101件（前年比12件減）の応募を得ることができた。

選考の結果24件16,370千円（内継続案件6件4,420千円）の助成を決定した。

1名辞退の申出があり、計23件15,370千円の助成を実施。

(2) 国際学術交流助成

我が国とアジア・オセアニア諸国との学術交流促進を目的とした人文・社会科学分野の国際シンポジウム・国際会議の開催に対する助成であり、12件（前年比2件減）の応募を受けた。

選考の結果3件5,590千円の助成を決定した。

(3) 出版助成

アジア・オセアニア諸国・地域の人文・社会科学分野（社会、文化、歴史、政治、経済等）に関する研究成果を出版・広報する者への助成であり、46件（前年比±0）の応募を受けた。

選考の結果5件5,600千円の助成を決定した。

1名辞退の申出があり、計4件4,400千円の助成を実施。

3. 環境事業

アジア・オセアニア地域における自然環境保護活動への支援事業として、「2025年度りそな環境助成」を2024年5月20日より8月30日まで公募し、新規案件として14件（前年比2件増）の応募を得た。選考委員による選考の結果、新規案件5件、継続案件7件、合計12件14,200千円の助成を理事会（1月7日）で決定した。助成金は3月26日に交付。

II. 庶務事項

1. 理事会

(1) 2024年度第1回理事会

開催日：2024年5月20日（於：りそな銀行 大阪本社ビル 3階会議室）

議案：1. 2023年度計算書類・事業報告の承認
2. 2024年度定時評議員会開催の承認
3. りそな銀行からの寄付金受入の承認
4. 「助成事業選考基準」改定の承認
5. 「環境事業選考基準」改定の承認

報告事項：1. 各事業の運営状況について
2. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告

上記内容で開催の結果、議案1～3および5は可決承認され、議案4は再協議となった。

(2) 理事会みなし決議（電磁的記録による開催）

議案：1. 「助成事業選考基準」改定の承認

電磁的記録による同意みなし決裁日 2024年6月5日

(3) 理事会みなし決議（書面による開催）

議案：1. 理事長、専務理事選定の承認

書面による同意みなし決裁日 2024年6月6日

(4) 理事会みなし決議（電磁的記録による開催）

議案：1. 2025年度アジア・オセアニア研究助成選考案の承認

2. 2025年度りそな環境助成選考案の承認

電磁的記録による同意みなし決裁日 2025年1月7日

(5) 2024年度第2回理事会

開催日 : 2025年3月4日 (於: りそな銀行 大阪本社ビル 3階会議室)

- 議案 : 1. 選考委員選任の承認
2. りそな環境助成プログラム改定の承認
3. 環境事業選考基準一部改定の承認
4. 2025年度事業計画、事業予算の承認
5. 2025年度特定資産運用方針の承認

報告事項 : 1. 今年度の業務実施状況概要説明
2. 代表理事・業務執行理事の職務執行状況報告
上記内容で開催の結果、議案1～5は可決承認された。

2. 評議員会

(1) 2024年度定時評議員会

開催日 : 2024年6月6日 (於: シェラトン都ホテル東京 佐保の間)

- 議案 : 1. 2023年度計算書類・事業報告の承認
2. 理事6名選任の承認

上記内容で開催の結果、議案1及び議案2は可決承認された。

3. 選考委員会

(1) 助成事業選考委員会

① 1次選考

2024年10月1日 メール会議実施

2024年10月4日 1次選考合格案件決定

② 2次選考

2024年12月12日 (於: シェラトンホテル東京地下2階 佐保)

- 議案 : 1. 2025年度アジア・オセアニア研究助成案件選考
2. 次年度以降の助成プログラム・選考について

上記内容で開催の結果、議案1は採択案が決定され、議案2で出された意見は今後の検討課題となった。

(2) 環境事業選考委員会

① 1次選考

2024年10月15日 メール(書面)会議実施

2024年10月18日 1次選考合格案件決定

② 2次選考

2024年11月26日 オンライン会議方式で実施

<選考面接>

1次合格者8名へ質疑応答(1人20分間ずつ実施)

<選考会議>

- 議案 : 1. 2025年度新規採択案件の決定
2. 2025年度継続案件の採択可否について

上記内容で開催の結果、議案1は採択案が決定し、議案2は全案件採択可となった。

③ 環境事業会議

2025年1月8日（於：りそな銀行 大阪本社ビル 3階会議室）

議案：次年度助成プログラム見直しについてのディスカッション

上記内容で開催の結果、議論された内容を纏めて最終改定案を理事会へ上程することとなった。

4. 登記・届出事項

（1）登記事項

2024年6月12日 代表理事・理事の重任登記実施

（2）内閣府への届出等

2024年6月10日 事業報告等の提出

2025年3月21日 2025年度事業計画書等の提出

5. その他

（1）2024年5月31日、りそな銀行より公益事業目的として40百万円の追加出捐を受けた。

（2）2024年8月26日より9月1日まで、理事長と専務理事が環境助成事業視察を目的として、フィジーへ出張した。（鈴木和信氏の事業を視察）

セミナー事業実施状況(2024年度)													
		第50回		第51回		第52回		第53回		第54回			
開催日		2024年4月25日(木)		2024年7月11日(木)		2024年10月24日(木)		2025年1月27日(月)		2025年3月14日(金)			
時 間		14:30～17:30		14:30～17:30		13:30～16:00		13:30～16:00		13:30～16:00			
場 所		ウェスティンホテル大阪 2階 オリアーナ		ウェスティンホテル大阪 4階 花梨		ウェスティンホテル大阪 4階 桔梗		ウェスティンホテル大阪 2階 オリアーナ		ウェスティンホテル大阪 4階 桔梗			
テーマ		未来社会のバビリオンを覗く ～あと353日、全貌が見えてきた大阪・関西万博～		国際交流とビジネス ～インバウンド需要をどう取り込むか～		ベトナムの最新ビジネス事情 ～ベトナムとの更なる関係深化を求めて～		2025年の世界・日本・関西経済を展望する		万博を契機としたスマート社会への誘い			
基調講演 タイトル 講師		＜第1部:講演＞ 「Better Co-Being～共鳴する未来～」 ＜講師＞慶應義塾大学 教授 宮田 裕章 氏		＜第1部:講演＞ 「関西空港構想から60年、 姿を変えた関西の空港と利用客の動向」 ＜講師＞関西エアポート株式会社 代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 氏		＜第1部:講演＞ 「野村貿易とアセアン、そしてベトナム」 ＜講師＞野村貿易株式会社 代表取締役社長 藤原 英昭 氏		＜第1部:講演＞ 「変動する世界と日本経済の課題」 ＜講師＞公益財団法人国際金融情報センター(JCIF) 理事長 玉木 林太郎 氏		＜第1部:講演＞ 「万博から展望する新たなスマート社会」 ＜講師＞株式会社三菱総合研究所 参事 関西・万博担当本部長 崎 恵典 氏			
		＜第2部:講演＞ 「『2025年大阪・関西万博』について」 ＜講師＞大阪府・大阪市万博推進局 局長 彌園 友則 氏		＜第2部:講演＞ 「インバウンドにおける最新動向と、 今後のインバウンド政策について」 ＜講師＞日本政府観光局(JNTO) 理事 伊与田 美歴 氏		＜第2部:講演＞ 「最近のベトナム情勢と日越関係 ーベトナム政局を読み解くー」 ＜講師＞アジア・ゼロエミッション共同体(AZEC)担当大使 前駐ベトナム特命全権大使 山田 滝雄 氏		＜第2部:講演＞ 「最近の金融経済情勢と今後の展望」 ＜講師＞日本銀行 理事 大阪支店長 神山 一成 氏		＜第2部:講演＞ 「データ駆動型スマートシティの実現に向けて ー大阪の挑戦ー」 ＜講師＞大阪府スマートシティ戦略部 戦略推進室 戦略企画課 総括主査 龍石 雅之 氏			
		＜第3部:パネルディスカッション＞ パネリスト:宮田 裕章 氏、彌園 友則 氏 コーディネーター:株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長(財団理事) 廣常 啓一 氏		＜第3部:パネルディスカッション＞ パネリスト:山谷 佳之 氏、伊与田 美歴 氏 コーディネーター:株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長(財団理事) 廣常 啓一 氏									
申込者数		122 名(会場) ※会場のみ申込受付		104 名(会場) ※会場のみ申込受付		74 名(会場) ※会場のみ申込受付		124 名(会場) ※会場のみ申込受付		58名(会場) ※会場のみ申込受付			
出席者数		93 名(会場) / 287 回(Live視聴のみ)		84 名(会場) / 161 回(Live視聴のみ)		75 名(会場) / 135 回(Live視聴のみ)		96 名(会場) / 164 回(Live視聴のみ)		54名(会場) / 131回(Live視聴のみ)			
アンケート回答者数		48 名(会場) / 5 名(web)		55 名(会場) / 7 名(web)		51 名(会場) / 12 名(web)		69 名(会場) / 27 名(web)		33名(会場) / 10名(web)			
アンケート 回答者業種		会社員、団体職員	58.5%	会社員、団体職員	50.0%	会社員、団体職員	50.8%	会社員、団体職員	46.9%	会社員、団体職員	51.2%		
		会社・団体役員	20.8%	会社・団体役員	24.2%	会社・団体役員	31.7%	会社・団体役員	35.4%	会社・団体役員	25.6%		
		自営業・自由業	7.5%	自営業・自由業	6.5%	自営業・自由業	11.1%	自営業・自由業	9.4%	自営業・自由業	9.3%		
		公務員	3.8%	公務員	6.5%	無職	1.6%	学校関係者	3.1%	無職	4.7%		
		無職	3.8%	無職	4.8%	公務員	0.0%	無職	2.1%	学校関係者	2.3%		
		学校関係者	0.0%	学校関係者	1.6%	学校関係者	0.0%	公務員	1.0%	公務員	0.0%		
		専業主婦(夫)	0.0%	専業主婦(夫)	0.0%	専業主婦(夫)	0.0%	専業主婦(夫)	0.0%	専業主婦(夫)	0.0%		
		学生	0.0%	学生	0.0%	学生	0.0%	学生	0.0%	学生	0.0%		
		その他	5.6%	その他	6.5%	その他	4.8%	その他	2.1%	その他	7.0%		
第1部 評価	評価	非常に役に立った	62.3%	非常に役に立った	55.9%	非常に役に立った	37.1%	非常に役に立った	41.1%	非常に役に立った	23.3%		
		役に立った	35.8%	役に立った	44.1%	役に立った	56.5%	役に立った	49.5%	役に立った	60.5%		
		あまり役に立たなかった	1.9%	あまり役に立たなかった	0.0%	あまり役に立たなかった	6.5%	あまり役に立たなかった	8.4%	あまり役に立たなかった	14.0%		
		役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	1.1%	役に立たなかった	2.3%		
	具体的感想	・新しい未来を創造するために「問いを立てる力」を磨く必要があることに気づいた ・万博の目的が、「デジタル革命」への進化と意味づけられているのを伺って納得 ・宮田先生のご説明が大変理解しやすくあつという間の時間で有意義な時間でした ・万博の全体概要・コンセプトを非常にわかりやすくご講演いただき理解が深まった ・日本のデジタル化、利用方法の狭さへの課題認識、その解消努力の動きが知れた ・万博に至るまでの文明の流れなど、非常にわかりやすく興味深い内容だった		・ご自身の考えを丁寧に話いただき、他では聞くことができない講演だった ・関西空港の歴史「ハブ空港からゲートウェイ空港へ」といったところに興味もてた ・人の移動が増え、空港はそのバロメーターであり経済を支える機関・施設である ・関空を利用したインバウンドがどこへ行ったか立ち寄ったかの図は、とても興味深い ・国際線の日本人旅客シェア低下には改めて驚かされた ・貴重なデータを交えてのすばらしい内容で期待以上だった		・御社とアセアンの結びつき、歴史、ベトナムのしたたかさ、成長力など良く理解できた ・野村徳七氏の強い開拓精神が、現在の海外戦略や社風に反映されていると感じた ・駐越経験があるので同様に日本・ベトナムの発展に取り組んだことを思い出した ・ベトナム人の二面性、南北問題、サテライト化、人材確保の重要度が理解できた ・ベトナムに進出してからの歴史と苦勞を乗り越えたお話しがとても興味深かった ・もっとベトナムビジネスにおけるノウハウ的なことが多くあれば良かった		・脱炭素、ESG投資への逆風の中、米国はビジネスとして継続することに強さを感じる ・緩和から適応へという考え方は、フェーズが変わりつつある中でとても大切だと感じた ・いただいたデータを基にどのような方向性になるか自分自身自問自答し考えたい ・国際的な経験に基づいた経済的課題についての教示は非常に有益 ・日本メディアの偏りに関しては、逆にイデオロギー的視点が入っているように感じた ・余りにも大局的過ぎて、具体的な現実問題とその対応策が不明確であった		・技術とコミュニティのデザインが重要であるという視点が大変興味深かった ・スマート社会について漠然としていたが、定義や中身が明確になりました ・総論的なお話しであったため、具体的なイメージに結び付けづらかった ・新しいコミュニティという視点の重要性を感じた ・万博で展示されるテクノロジーの紹介があった ・万博に行って確認するべきかと思った			
		評価	非常に役に立った	50.0%	非常に役に立った	31.0%	非常に役に立った	62.3%	非常に役に立った	38.8%	非常に役に立った	41.7%	
			役に立った	44.0%	役に立った	53.4%	役に立った	36.1%	役に立った	48.4%	役に立った	50.0%	
			あまり役に立たなかった	6.0%	あまり役に立たなかった	15.5%	あまり役に立たなかった	1.6%	あまり役に立たなかった	10.8%	あまり役に立たなかった	5.6%	
役に立たなかった	0.0%		役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	2.1%	役に立たなかった	2.8%			
第2部 評価	具体的感想	・準備が進んでいることが分かり民間バビリオンも面白そうなので2025年4月が楽しみ ・建設現場の進捗状況、バビリオンの出展国や企業の概要について理解できた ・期待度が低下していることは問題なので、一般者向けのPRをもっとした方が良い ・府・市民にとっては費用対効果や工事の負担額増加等に踏み込んだ説明が欲しい ・人生を見つめなおす良い機会を生むバビリオンになると思います ・各国のバビリオンコンセプトもおもしろく万博に行きたくなった		・日本政府観光局としての取り組みが具体的にわかり興味深かった ・インバウンド関連経済は観光立国日本として肝となるセクターであることがわかった ・サステナブルツーリズム、アドベンチャートラベル、高付加価値旅行の取組み面白い ・統計データや施策紹介は新しい知見を得るというよりは、JNTOのアピールが主体 ・もう少し地域に特化した話も聞きたかった。オーバートーリズム対策は？ ・データの説明だけで戦略的な展望がなかった		・ベトナム企業との付き合い方等の参考になり、当社の企業活動に活かしていきたい ・文化面の解説が大変興味深いものでした。阿倍仲麻呂には驚きました ・対中国との関係、中国側とベトナム側の捉え方の違いもわかった ・トーラム書記長の人柄や考えについて、良く理解できた ・ベトナムの政局、外交等を考える機会が得られた ・もう少し具体的な経済・市場について聞きたかった		・金利と物価上昇率と賃金上昇率の関係は複雑である事が良く理解できた ・企業が競争力を維持するためには、労働市場の安定化がより一層重要 ・金利政策のコントロールは非常に神経質なものだとあらためて感じた ・多角的レビューを用いて、この25年の変化を総括頂けた ・賃金上昇と物価上昇のバランスのための金利政策を打ち出してほしい ・過去のデータが主で、今後の展望、国際関係、関西経済の具体的な話が少ない		・便利さの追及で、高齢者や他の「健康といのち」の向上にどう結びつくかわからない ・情報の利活用は、様式のバラツキ等が問題であり、キチンと整合することが大切 ・大阪府民のQOL向上と、都市としての競争力向上にできるだけ協力したい ・大阪のスマートシティの現状と取り組みをわかりやすく説明頂けた ・データ連携の重要性と具体的な構想がよくわかった ・ORDENの取り組み内容が興味深かった			
		第3部 評価	評価	非常に役に立った	44.1%	非常に役に立った	35.9%	非常に役に立った	－	非常に役に立った	－	非常に役に立った	－
				役に立った	52.9%	役に立った	56.4%	役に立った	－	役に立った	－	役に立った	－
				あまり役に立たなかった	2.9%	あまり役に立たなかった	7.7%	あまり役に立たなかった	－	あまり役に立たなかった	－	あまり役に立たなかった	－
役に立たなかった	0.0%			役に立たなかった	0.0%	役に立たなかった	－	役に立たなかった	－	役に立たなかった	－		
第3部 評価	具体的感想	・「万博から未来へ進化」「万博をきっかけにした取組み」が今後のポイントになる ・実際に万博を体験することで、どのようなことができるか？各々が考える必要あり ・DXやWell beingなどの認識を得ながら人々が再度近づき交流しなければならない ・未来への実践、生態系、体験、今までの万博の物中心から未来社会への動き ・講演者の内容にける熱意と、コーディネータの方のスムーズな展開 ・PRできる内容としては不十分と感じた		・インバウンドを観光に限定せず広義にビジネスの機会に、は言うは易し行はし難し ・万博に向けた大阪海外ビジネスワンストップ窓口は、その重要性を再認識した ・質問への回答、三人でのお話、万博に向けて先を見据えてのお話等勉強になった ・日本全国でインバウンドの恩恵が受けられるための取り組みが一層必要になる ・インバウンドをビジネスに取り込む具体的なイメージがわかなかった ・話題が少しかみ合っていないように感じた。Q＆Aがもう少しあってもよかった									
		・先に講演を聞いてからパネルディスカッションという構成が非常に良く理解しやすい ・時間配分、バランス、明るさなど最適。運営や映像・音声も快適。だが館内が寒い ・「対話」することで、最新技術を皆で成長させ「ソフトレガシー化」することで完成する ・万博に関する意識が大きく変わった。万博の認識が自分の中でより身近になった ・大阪・関西万博がより楽しみになりました ・名刺交換会、交流会があれば良かった		・経済的な目的よりも、民間人との対話や視察・学習目的の訪日へと育てていくべき ・円安で海外に行きづらいが山谷社長が仰ったように関西らしい国際交流に協力したい ・講演内容もパネルディスカッションの内容もとても興味深く、参加して本当に良かった ・万博からインバウンドへと前回セミナーからシリーズとして聴けたことはよかった ・国際交流とビジネスに関し、示唆に富む機会だったと思います ・会場の席配置や受付の手順など運営面がとても優れていた		・今後のテーマとして「人材不足」とした外国人やDXなどに関するお話しが聞きたい ・知識の吸収という観点で自身の実務に活かしていければ良いと感じた ・ベトナムの内情を伺い知ることができ、非常に参考になった ・セミナー募集時に初級～上級向けがわかるとありがたい ・WEB配信は見やすく、また聞きやすかった ・いつもながら素晴らしい運営に感謝		・世界を俯瞰した経済展望と日本への影響やリスクについての話が聴きたかった ・簡潔でわかりやすかったが、それをビジネスにどういかしていくか、非常に難しい ・今の自分が置かれている状態を考えないといけない。経済情勢は人ごとではない ・オンライン参加者にもストレスのない運営。貴重な機会をありがとうございました ・あまりお聞きする事がないお二人の講演に感銘を受けた。来年も楽しみにしています ・自分の知らない情報や、着眼点があり参考になりました		・知らないことが多く積極的に情報は取りにいかないといけないことを認識できた ・誰向けのセミナーなのかわかりにくいので、対象を絞ってもらえると参加しやすい ・万博を契機とした様々な社会実装の取組を概観する事ができて参考になった ・参加して良かったです。今後とも、良い講演を期待しております ・大手メディアに出ない現場の実情が良くわかる内容だった ・貴重な機会を有難う、また素晴らしい運営に感謝します			

第12回環境シンポジウム実施結果

<開催概要>

開催日	2024年11月19日(火)
時間	13:30～16:50
場所	ウェスティンホテル大阪 2階 オリアーナ
テーマ	「ウェルビーイングを考える～みんなで踊りを:自然から”いのち”へ～」
基調講演①	「アートが生み出す共感とエネルギーの場」 金沢21世紀美術館 館長 長谷川 祐子 氏
基調講演②	「脱炭素先行地域・生駒市におけるカーボンニュートラル実現と歩いていけるまちづくり」 奈良県生駒市 市長 小紫 雅史 氏
財団事業紹介	「レッサーパンダに最適な森を求めて～地域住民参加型保全活動の可能性～」 大牟田市動物園 企画広報・教育担当 富澤 奏子 氏
パネルディスカッション	パネリスト: 長谷川 祐子 氏、小紫 雅史 氏、富澤 奏子 氏 コーディネーター: 総合地球環境学研究所 名誉教授 阿部 健一 氏(財団 環境事業選考委員長)

<アンケート結果>

出席者数	60 名(会場) / 116回(web視聴数・ライブ配信のみ)		本日の環境シンポジウムへ参加しての感想	
回答枚数	28 枚(現地) / 8 枚(web)		・違う分野の方々からの見方、考え方を聞きし、大変勉強になりました。新たな気づきがありました ・環境課題の対応には多くの分野にかかわっているので、何とか整理できないものかと悩みます ・環境に向けた様々なアプローチを示して頂くこのシンポジウムを是非多くの方にとって頂きたい ・ワクワクや人とのコミュニケーションが環境課題に取り組む基礎となっていることに気づいた ・いつもながら、WEBでの同時配信と後日のアーカイブ配信、ありがとうございます ・人々の持続可能な幸福、そのためにも環境を考える事は大切だと感じています ・多少時間が長くなっても良いので、パネルディスカッションは毎回やって欲しい ・各ご講演の組み合わせがそれぞれ異色に思えたが、つながっていると感じた ・講演者の方々のお話しが素晴らしい、一市民として非常に興味を持てた ・全世界で同じテーマを求めるためには、どうすれば良いのか疑問 ・時間配分に工夫が必要かと思いました。テーマは2つ位良い ・地域振興、創生をテーマにした企画を期待します ・それぞれに特色ある話題提供で面白かった	
回答者業種	会社員、団体職員	41.7%		
	会社・団体役員	27.8%		
	自営業・自由業	19.4%		
	無職	2.8%		
	学校関係者	0.0%		
	学生	0.0%		
	公務員	0.0%		
	専業主婦(夫)	0.0%		
	その他	8.3%		
(1)基調講演①(長谷川氏)評価			(2)基調講演②(小紫氏)評価	
非常に役に立った		41.7%	非常に役に立った	60.0%
役に立った		44.4%	役に立った	37.1%
あまり役に立たなかった		11.1%	あまり役に立たなかった	0.0%
役に立たなかった		2.8%	役に立たなかった	2.9%
<主な具体的意見>			<主な具体的意見>	
・長谷川館長がお持ちの知識・経験・感覚を分かりやすく言語化されていて新しい視点を与えていただいた ・今回の講演を聞いて見方が変わった(五感によるsensory learning)芸術と環境改善の関係も理解できた ・今まで聞いたことがない学術的な面白さがあり、この40分では足りないほど魅力的なお話しでした ・作者の意図を考えてアートに接するようにすることで自身の高度化につなげたいと思った ・エコロジーに対する考え方をアートを通して共感を呼ぶアプローチが目からウロコだった ・アートと環境が出会うとワクワクする。すごい、アートのポテンシャルを感じた ・アートに対する概念が大きく変わった。理解するのに時間が必要 ・興味深い内容で、金沢21世紀美術館を訪ねてみたいと思った ・「芸術家は表現するための技を持っている」にグッときました ・高尚すぎて理解が追い付かなかったのが正直なところ ・言語コミュニケーションをこえて共感が大事			・自治会館に本棚を置き、各家庭で不要になった本を置く。非常に素晴らしい取り組みだと思います ・脱炭素をまちづくりに組み込むことで、住民が知らず知らずに取り組める仕組みが興味深い ・環境自体を目的にしてはダメ、楽しく人が集まる場所をつくるという視点が素晴らしい ・「福祉を福祉の顔をして、取り組んではいけない」という言葉に感銘を受けた ・カーボンニュートラルにどの程度貢献したか定量的数値がほしかった ・「まちのえき」から問いの再構築が必要であるとの話しがよかった ・問題解決の考え方、伝え方の工夫等が参考になりました ・生駒市の取り組みや市長の意気込みが伝わってきた ・「誰一人お客様にしない」それが大事だと思う ・子ども食堂の話はとても合点がいった ・実現可能なアイデアや情報が良かった	
(3)事業発表(富澤氏)評価			(4)パネルディスカッション評価	
非常に役に立った		64.7%	非常に役に立った	59.3%
役に立った		32.4%	役に立った	37.0%
あまり役に立たなかった		2.9%	あまり役に立たなかった	3.7%
役に立たなかった		0.0%	役に立たなかった	0.0%
<主な具体的意見>			<主な具体的意見>	
・生き物全てのものの地球であることを、動物園という楽しい場から発信されているところに共感致しました ・多額な費用もかかる事だと思われそうですが、続けられる為にも今後も支援が継続される事を切に願います ・科学に基づく話であり、レッサーパンダを事例に動物保護の考え方、すごく関心が湧きました ・ユーモアを持って楽しそうに話されていたが、大変困難なテーマに真剣に取り組まれている ・動物園は、サイエンスであるという考え方を初めて知った。そういう見方をしていなかった ・聞いている我々をワクワクさせる講演、久しぶりに「いい話」を聞かせて頂きました ・動物種の保全に大変多くの方が協力されて尽力されている事が伝わりました ・取組の素晴らしさと先生のお人柄に終始魅了されっぱなしでした ・「動物福祉を伝える初めての動物園」ということを初めて知った ・動物福祉、NeORPの活動は素晴らしい ・大牟田市動物園を訪ねたいと思います			・アート・芸術という点で親和性を感じている。事業の進めかたに対して各分野からのお話は参考になった ・文化・アートと言っても、全員が頭で考えるのではなく、現場第一主義で肌で学ぶべきなのかと思った ・アート、行政、動物園をクロスさせることで、今まで発想できなかった「何か」を生み出せそう ・フリートークならではの温度感のある対話が大変興味深く、気づきの多い機会となりました ・芸術・動物園・リーダーシップ識者の考え方が聞けて為になりました ・政治・経済と言っても、文化・教育・平和が基本なのかと感じました ・今後の社会でますますアートが重視されるようになってくると思った ・3つのご講演の趣旨に共通・共感できるものを気づかせてもらった ・パネルディスカッションの時間が短く残念でした ・質疑応答で納得できる箇所が多々あった ・様々なことに話しが飛んで面白かった ・皆さんの考え方がよくわかった	

2025年度 アジア・オセアニア研究助成一覧表

調査研究助成

《個人研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成額(万円)
※ 中国近代化のひずみ-中華人民共和国以後の文学における男子学生の表象に着目して	おがわ ちから 小川 主税	北京第二外国语学院 日本語学院外国人講師	90
※ 近代秘密結社の変容から見た中国南西部地域社会の特質 —哥老会(カロウカイ)を研究対象として	ようかしん 楊 家鑫	筑波大学大学院人文社会科学研究科	96
※ 高句麗系金工品の系譜的検討から見る 古代東アジアの地域間関係の研究	ちん えいきょう 陳 永強	名古屋大学大学院人文学研究科 博士後期課程	43
※ 仏教とナショナリズム -20世紀ベトナムの仏教諸団体を例に-	きむ じうん 金 知雲	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究 研究科 博士課程(5年一貫制)	73
※ オーストラリア先住民トレス海峡諸島島の 非白人祖先の系譜をめぐる人類学的研究	きむら あやね 木村 彩音	大阪経済法科大学 国際学部 任期付准教授	100
※ 日本語学習とジェンダー:韓国の女性たちを中心に	やん じんすく YANG JINSUK	大阪公立大学 准教授	40
パリ講和会議における人種平等提案と東アジア :マルチ・アーカイバル手法に基づいて	こう しせい 江 子正	京都大学 法学研究科法制理論専攻 博士後期課程	100
モンゴル国における家畜の交換に関する文化人類学的研究	バトオチル バルジンニヤム BAT-OCHIR BALJINNYAM	総合研究大学院大学 文化科学研究科(博士課程)	96
1910～1920年代モンゴル国における近代政治概念の受容 -ブリヤート・モンゴル知識人の行動と思想を通して-	ウルルード ズンベル ZHONG BOER	東京外国語大学 非常勤講師	45
1960年代中央アジア映画に見られる自己表象:文化的ヒエラルキー における中央アジア文化人の戦略と民族アイデンティティ	まつもと あきら 松元晶	北海道大学大学院 文学院博士後期課程	50
インド・パンチャーヤト制度における行政と政治の実践 --西ベンガル州ジャールグラム県アグイボニ村での聞き取り調査から--	まき あんな 牧 杏奈	明治大学 専門職大学院 ガバナンス研究科 助教	28
江戸時代における明の遺民の来朝と文化交流 -張斐の事例を中心に-	こ かしん 顧 嘉晨	東京大学大学院 人文社会系研究科 アジア文化研究専攻 博士課程	74
ミャンマーの紛争当事者にとっての国境認識とネットワーク :1988年民主化運動とタイ国メーソートを事例に	きむら とおる 木村 亨	立教大学 異文化コミュニケーション研究科 異文化コミュニケーション専攻 博士前期課程二年	60
清末中国地方エリートの対外認識と「国家」の形成 --各省諮議局の地方交渉に対する議論をめぐって(1906-1912)	ちよう そそ 趙 楚楚	東京大学・大学院 総合文化研究科・地域文化研究専攻 博士後期課程	60
中国の国有企業改革と地方政治の構造変動	はやた かん 早田 寛	慶應義塾大学大学院法学研究科 後期博士課程	75
文明の交錯地における価値規範の変遷-中央アジアの 脱炭素化にみる小国の価値規範の変容と大国の影響-	うじい あやか 氏居 綾香	秋田大学大学院 国際資源学研究科 博士後期課程	66
14世紀イル・ハーン朝における東西学術交流 『珍貴の書』を中心に-	つしま みのる 對馬 稔	京都大学大学院文学研究科 博士後期課程3年次	60
1910年日韓併合に対するアジア主義の思想的影響の解明 -玄洋社の天皇論に着目して	ゆん すよん 尹 粹娟	京都大学大学院 人間・環境学研究科共生文明学専攻 博士後期課程	60
清末中国の学校唱歌と日本	ろ せいけい 呂 政慧	名古屋大学大学院人文学研究科 日本文化学講座 博士候補研究員	54
中国西北地域における金融の近代化 -甘肅省銀行の制度規定との運行実態を中心に(1939-1949)-	おう しゆんきつ 王 春佑	筑波大学 人文社会科学研究科 一貫制博士課程	80
ヤムイモと現金の贈与から探るニューカレドニア先住民 カナツクの市場経済との共存	ますだ ももか 増田 桃佳	東京大学大学院 医学系研究科 人類生態学教室 博士課程	80
中華民国期上海における移民・地方劇・ジェンダー :浙江同郷組織による越劇チャリティ公演に着目して	てしるぎ さづき 手代木 さづき	京都大学大学院文学研究科 博士後期課程	47

《共同研究》

研究課題	研究者	研究者所属	助成額(万円)
インドネシアの国策紙芝居は何を伝えたのか? -オランダ戦争資料研究所所蔵資料の分析から-	きゅう いくしろう 邱 昱翔	大阪公立大学都市文化研究センター 研究員	60

※印は継続支援案件

助成金合計
23件 1,537万円
(2025年3月助成実施)

2025年度 アジア・オセアニア研究助成一覧表

国際学術交流助成

研 究 課 題	研 究 者	研究者所属	助成額(万円)
国際シンポジウム: 東南アジアにおける海辺居住のレジリエンス -三陸被災地との対話をまじえた地域間比較	ながつ かずふみ 長津 一史	東洋大学社会学部 教授	200
67th Meeting of the Permanent International Altaistic Conference	まえの りえ 前野 利衣	早稲田大学教育総合研究所 助教	169
国際会議 "Negotiating Asian Spatialities: Historical and Contemporary Perspectives on Mobility, Liminality, and Rootedness"の開催	おがわ みちひろ 小川 道大	東京大学東洋文化研究所 准教授	190

助成金合計
3件 559万円
(2025年3月助成実施)

出版助成

研 究 課 題	研 究 者	研究者所属	助成額(万円)
感覚の植民地主義: フィリピンのろう文化に着目して	やました えり 山下 恵理	東京大学東洋文化研究所 特別研究員	100
帝国日本の植民地兵士研究 -朝鮮人陸海軍特別志願兵の戦中・戦後史-	きむ ゆび 金 庚毘	一橋大学大学院社会学研究科 特任講師	100
Beyond Liberal Peacebuilding: Multi-Layered Conflicts and Peacebuilding in Mindanao	たにぐち みよこ 谷口 美代子	宮崎公立大学人文学部 教授	120
評価から問い直す国際開発援助 -独立後のキルギス共和国に対する国際援助の成果と課題-	とがし マハバット 富樫マハバット	同志社大学 研究開発推進機構・政策学部 特任助手	120

助成金合計
4件 440万円
(2025年3月助成実施)

2025年度りそな環境助成 一覧表

活 動 題 目（ 企 画 名 ）	申 請 者	研究者所属	助成額(万円)
※ ミャンマー・山岳少数民族地域における 若者発信での「分別でゴミを資源に」推進事業	しばた きょうこ 柴田 京子	特定非営利活動法人地球市民の会 ミャンマープロジェクトマネージャー	120
※ ネパールにおけるIoTセンサシステムを活用した レッサーパンダ生息地の環境保全、ならびに環境教育の推進	とみさわ かなこ 富澤 奏子	大牟田市動物園 企画広報担当	120
※ フィジー野球・ソフトボール協会による植林・地域環境保全活動を 通じた環境教育と気候変動対策の推進 ～スポーツを通じた環境意識向上と人材育成の実践～	すずき かずのぶ 鈴木 和信	日本大学 国際関係学部 教授	120
※ 環境保護区クリンチ山のゴミをコーヒー豆に変える運動 ～1KG1PACKプロジェクト～ それに伴う周辺住民のごみ銀行推進と環境教育	やまもと ひろふみ 山本 博文	株式会社 坂ノ途中 海ノ向こうコーヒー事業部 部長	120
※ バングラデシュの水供給困難地域における 安全な水利用のための技術支援と環境教育	すえなが かずゆき 末永 和幸	応用地質研究会 ヒ素汚染研究グループ 代表	120
※ 日本とベトナムの学校現場の実践的な交流を通じた 質の高い環境教育モデルの構築	あらいし しょうじ 新石 正治	特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン 事務局長	100
※ ネパールの洪水常襲地域における 川との共生を目指した地域づくり事業	かつい ひろみ 勝井 裕美	特定非営利活動法人 シャプラニール ＝市民による海外協力の会 事業推進グループ チーフ	120
ボホールの孤島でのごみ削減による持続可能な海藻栽培への挑戦 ～学び合いの場を構築し、環境アクションを共に～	なるせ はるか 成瀬 悠	特定非営利活動法人 ハロハロ 理事長	120
ネパールパンチカール市ラウキニコミュニティフォレストにおける 住民参加型植生調査と利用促進環境整備事業	なかむら あい 中村 愛	特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン 森林管理プロジェクトマネージャー	120
ボルネオ島の村人主体のエコツーリズムによる 持続可能な森林保全と地域&世界へ発信する拠点づくり	こんどう みさこ 近藤 美沙子	ウータン・森と生活を考える会 インドネシア事業担当	120
ティモール島における環境保全型農業の可能性と地域の 食文化復興の道を探る～東西ティモール間の交流を通じて～	のがわ みお 野川 未央	特定非営利活動法人 APLA 事務局長、理事	120
インド国ビタカニカ湿地におけるワニとの共生に向けた 環境再生と集落ぐるみの獣害対策	いわさき しんべい 岩崎 慎平	ラムサールセンター 会長	120

※印は継続支援案件

助成金合計
12件 1,420万円
(2025年3月助成実施)

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項は無い。